

令和4年度 教育事業(指導者等養成研修事業)

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村(16年目)

1 事業概要

大学生は、前半の3日間でリーダーシップや子供への接し方や集団作りの技法、伝承文化について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。そして、後半の3日間を小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身に付けるとともに、活動を通して伝承文化を小学生に伝えることができた。



2 事業の目的(ねらい)

地域を大切にし、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験の融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育むとともに、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

3 企画のポイント

前年度までの課題として、活動場所や日程の検討、with コロナ時代に対応した宿泊事業の在り方等が挙げられていた。そこで、今年度は、①オンラインで講義を事前に受講することで日程を短縮しながらも「子どもむかし生活体験村」の準備時間を確保すること、②感染対策を十分に講じた上で交流の家を宿泊場所とし、交流の家やその周辺地域の素材(自然・文化・人材等)を用いて伊予の伝承文化を学ぶことを企画のポイントとした。②については、肱川の水運や大洲の郷土料理に着目し、学びを深めるための体験活動として、カヌーや芋炊き作りに挑戦するプログラムを企画した。

4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
国立大学法人 愛媛大学

5 後援 愛媛県教育委員会 大洲市教育委員会

6 期日 令和4年8月16日(火)～21日(日)
※大学生を対象とした参加者講習会を7月20日(水)に実施
※子どもむかし生活体験村は8月19日(金)～21日(日)に実施

7 場所 国立大洲青少年交流の家

8 参加人数 大学生15名
〔子どもむかし生活体験村 小学校4～6年生19名(募集人数20名)〕

9 講師

山田 広志 氏(大洲市立博物館 学芸員) 山崎 哲司 氏(元愛媛大学教授)
日野 克博 氏(愛媛大学教授) 高橋 平徳 氏(愛媛大学准教授)
玉井 義幸 氏(国立大洲青少年交流の家研修指導員)

重松 公爾 氏 (大洲地区広域消防事務組合消防署員)

羽藤 大晟 氏 (伊予市立岡田小学校 教諭) 国立大洲青少年交流の家 職員

10 日 程

7/20 (水)	1620											1750																																																																																																													
												オンラインによる ガイダンス																																																																																																													
8/16 (火)	930											1000											11:00											12:00											13:00											16:00											17:00											18:00											21:00											23:00																					
												受付・検温											開村式・リ											アイスブレイク											昼食											(講義・演習) 安全管理 普通救命講習 I											うちわ作り											つどい 検温等											野外炊飯 (芋炊き)											入浴 リフレクション 情報交換会											就寝										
8/17 (水)	730											830											12:00											13:00											15:00											17:00											18:00											21:00											22:30																																
	検温・朝食											カヌー、川遊び (荒天：昔遊び体験)											弁当											午前中の活動 の続き											歴史体験活動 (大洲城、大洲 市立博物館)											つどい 検温等 夕食											講義 キャンドルサービス											入浴 リフレクション											就寝																																
8/18 (木)	730											9:00											12:00											13:00											17:00											18:00											21:00											22:30																																											
	検温・朝食											昔遊び体験・生活体験村 準備											昼食											生活体験村の準備											つどい 検温等 夕食											生活体験村の 準備											入浴 リフレクション											就寝																																											
8/19 (金)	730											830											10:00											11:00											12:00											13:00											15:00											17:00											17:30											20:00											22:30										
	検温・朝食											受入れ 準備											開村式・生											アイスブレイク											昼食											班のきまり 係決め 決まり発表 ベッドメイキング											うちわ作り											つどい 検温等											野外炊飯 (芋炊き)											入浴 リフレクション											就寝										
8/20 (土)	730											830											12:00											13:00											15:00											17:00											18:00											20:00											22:30																																
	検温・朝食											カヌー、川遊び (荒天：昔遊び)											昼食											カヌー、川遊び (荒天：昔遊び)											歴史体験活動 (大洲城)											つどい 検温等 夕食											キャンドル サービス 思い出発表 準備											入浴 リフレクション											就寝																																
8/21 (日)	730											830											9:00											10:00											11:00											12:00											13:00																																																						
	検温・朝食											退所 点検											発表 準備											思 い 出 発 表											開 村 式 ・ 生											開 村 式 ・ リ											解 散																																																						

11 活動内容

〈第1日〉8月16日(火)

「アイスブレイク」

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

「子どもむかし生活体験村」で行われる「仲間づくりゲーム」での指導方法を学んでもらうため、グループワークゲームを行い、大学生参加者の緊張をほぐした。活動が進むにつれて、徐々に参加者の笑顔が広がっていった。



「普通救命講習Ⅰ」

講師：重松 公爾 氏（大洲地区広域消防事務組合消防署員）

大学生は、心肺蘇生法やAEDの使用方法、毛布を使っての運搬方法など、多くの事を学び、緊急時の対応について理解した。また、全員が真剣な表情で、実技にも一生懸命に取り組んだ。

「うちわ作り」

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

「子どもむかし生活体験村」で、大学生が小学生にうちわ作りを指導するため、その技術を習得しようとして全員が熱心に取り組んでいた。また、指導する際に落ち着いてできるような時間設定や声掛けなどについても学ぶことができた。

「野外炊飯（芋炊き）」

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

大洲市の芋炊きの歴史に触れ、子供たちが野外炊飯をする際にどのようにして安全面に気を付けて実施をすれば良いのかを考えながら活動した。楽しみながらも、小学生がいることを想定しながら意見を出し合い、真剣に取り組んだ。



〈第2日〉8月17日（水）

「カヌー 平水」

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

午前中のカヌー研修では、カヌーの運び方や平水でパドルの使い方、カヌーツーリングでの笛による指示の仕方、及びリバーサインについて確認した。初めは、個人でのカヌーの操作に苦労していた様子であったが、時間が経つにつれ、他の学生と会話をしながら笑顔でカヌーを操作することができていた。



「川遊び」

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

河原では、子供たちが楽しく安全に活動できる遊びを考えた。当日は熱中症対策も必要という視点から、大学生は川の中の生物観察や座っての水切り、石集めなど、体力の消耗が少ない活動を準備していた活動を準備していた。



「カヌー（ツーリング）」

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

午前中のカヌー研修で学んだことを生かしながらカヌーツーリングを実施した。カヌーの操作だけでなく、歴史的建造物の少彦名神社や臥龍山荘、大洲神社、大洲城などに加え、河原の様子や野鳥、魚などを見て子供たちに何を伝えるのかを意欲的に学んだ。



「歴史体験活動」

講師：山田 広志 氏（大洲市立博物館 学芸員）

大洲市立博物館の見学では、大洲城や周辺の歴史、火縄銃などについて学んだ。大洲城周辺の探索では、町並みやお城の特徴について見て回り、博物館で見た資料と照らし合わせながら詳しく説明を受けた。



「ボランティア活動の意義」

講師：羽藤 大晟 氏（伊予市立岡田小学校 教諭）

小学生との生活体験を控えて、小学生への接し方とグループのルール作りや目標作りの手法について、羽藤氏から講義していただいた。子供たちと関わる際のポイントについても具体的に学ぶことができた。

「キャンドルサービス」

講師：玉井 義幸 氏（国立大洲青少年交流の家 研修指導員）

キャンドルサービスの構成や楽しむための手法について玉井氏より学んだ。キャンドルサービスでは、厳かな雰囲気や楽しむ場面を区別するためにポイントを具体的に体験しながら学ぶことができた。



〈第3日〉8月18日（木）

「昔遊び・生活体験村の準備」

講師：高橋 平徳 氏（愛媛大学准教授）、国立大洲青少年交流の家 職員

各役割担当で話し合いながら準備を進めた。その際、子供の目線に立って考えたり、大学生役と子供役に分かれて役割演技したりするなど、意欲的に準備に取り組む姿が見られた。



〈第4日〉8月19日（金）

「『子どもむかし生活体験村』開村式・アイスブレイク」

大学生が、開村式やアイスブレイクの進行を行った。アイスブレイクでは、担当者以外の学生も積極的に子供たちと関わり、緊張をほぐし、子供たちの表情が豊かになっていくのを感じた。



「班のきまり・係決め・きまり発表」

各班での目標を立てた。大学生は小学生から思いや言葉を聞き、班全員の思いを画用紙にまとめた。大学生の支えがあり、小学生は発表の時にしっかりと班のきまりを発表することができた。発表前には、大学生が小学生に発表のポイントをアドバイスしたり、発表時に優しく見守ったりする姿が見られた。



「うちわ作り」

大学生がうちわの作り方について準備していた資料を使って小学生に指導した。班の仲間と協力してうちわ作りを進める過程で話も弾み、時間とともに打ち解けていく様子が見られた。特に、うちわに描くイラストを大学生と小学生が相談しながら決めている姿は、見ていると微笑ましかった。



「野外炊飯（芋炊き）」

野外炊飯場を利用して芋炊き作りを行った。大学生は事前に学んだことを生かしながら感染予防にも気を付けて、子供たちと楽しく調理をしていた。また、食材を切る係やかまど係などの役割分担をして協力して取り組んだ。美味しい芋炊きを作るため、小学生と大学生が積極的にコミュニケーションを取り、調理に励んでいた。



〈第5日〉8月20日（土）「カヌー（平水）」

カヌーの運び方や平水でのパドルの使い方、カヌーツーリングでの笛での指示の仕方、及びリバーサインについて確認した。大学生は、班員の小学生の行動を観察しながら的確にアドバイスし、小学生は楽しくカヌーを操作することができていた。



「川遊び」

当日は熱中症対策に留意して、座ってできる遊びや川の中の生物観察など、子供たちに体を休めることを意識した活動を選択している学生が多く見られた。大学生が進んで子供たちの体調管理や安全に気を付けて活動していることがうかがえた。



「カヌー（ツーリング）」

午前中に学んだカヌーの操作を生かしながらカヌーツーリングを実施した。カヌーの操作だけでなく、友達と会話をしたり、歴史的建造物や景観などを見て楽しくツーリングしたりすることができた。長距離を移動するため、大学生が小学生を励ましたりしている場面が多く見られた。



「歴史体験活動（大洲城）」

学芸員の山田氏から学んだことを小学生に分かりやすく説明したり、問題形式にしたりして大洲城までの道のりを楽しんだ。大洲城では、班活動をして一緒に場内を巡った。大学生と小学生は同じ目線で見学し、外の景色を楽しんだり、城内に大工が遊び心で製作したテントウムシやネズミを見付けたりする活動にも取り組んでいた。



「キャンドルサービス」

玉井氏からいただいたアドバイスを基に、プログラム担当者だけでなく、他の学生たちも協力して入念な準備を行った。本番が始まると、厳かな雰囲気を作ったり、場を盛り上げたりして楽しい一時を過ごすことができた。大学生と小学生たちがみんなで楽しい時間を作り、蝋燭の火を囲んで一つになることができた。



〈第6日〉8月21日（日）

「思い出発表」

担当の大学生リーダーが司会を務め、思い出発表を行った。小学生が各班で思い出を発表し、他の班の小学生や大学生、保護者が発表を聞いた。小学生は、生き生きとした表情で、印象に残った活動内容や班全体の成果などを発表した。



「閉村式（子どもむかし生活体験村）」

代表の小学生が3日間の感想を発表し、副村長（次長）が挨拶した後、大学生が閉村式を締めくくろうとした時、小学生から大学生へのサプライズが行われた。前日の夜に大学生が振り返りを行っている間に練習した、歌と感謝の色紙が大学生に贈られた。会場にいた保護者の涙も誘い、3日間の共同生活が締めくくられた。



「閉村式（リーダー村）」

大学生がリーダー村での感想を発表し、愛媛大学職員、交流の家職員がそれぞれ感想を述べた。大学生の感想から、想像していた以上の感動体験をすることができ、そこから学ぶことがたくさんあったことが伺えた。閉村式後にも、大学生が一丸となって片付けを行い、5泊6日でより積極的に行動したり、意見を出し合ったりする姿が見られるようになったと感じた。



1 2 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果

【大学生】 *満足：100% *やや満足：0% *やや不満：0% *不満：0%

- 自分を成長させることができ、たくさんのことを学ぶことができたので、参加して良かったです。
- とても勉強になった5泊6日でした。貴重な経験をありがとうございました。

【小学生】 *満足95% *やや満足：5% *やや不満：0% *不満：0%

- みんなと仲良くなれた。(11歳・男子)
- 最初は緊張していたけれど、すぐに友達ができて、とても楽しかったです。(9歳・男子)
- 大学生がとても優しく、面白かった。(11歳・女子)

1 3 事業の成果

「子どもむかし生活体験村」の準備時間を十分に確保したことで、学生はそれまで学んだ知識や技法を互いに確認し合いながら「子どもむかし生活体験村」の準備にじっくりと取り組むことができた。また、一人ひとりが楽しみながらもそれぞれの課題に真剣に向き合い、充実した日々を送ることができた様子が、リフレクションや満足度100%のアンケート結果からもうかがえた。

1 4 事業の課題

昨年度に引き続き、今年度もコロナの影響でリーダー経験者の参加は1名のみとなった。初めて事業に参加する学生にとって、講師だけでなく先輩リーダーから学ぶことは多い。今年度の経験者が来年度も参加できるよう、大学側と日程を調整していく必要がある。また、本事業はモデル事業の一つである。教員に必要な資質能力の育成に効果的なプログラムや指導法の開発に向けて、愛媛大学の高橋准教授とも連携を密にし、事業の普及・啓発のための準備を進めていきたい。

(担当：企画指導専門職 二宮啓)